令和 5 年度

上池さくらこども園　自己評価

	保育の中での学び、気づき、今後の見通し	保護者・職員との対話の中で心がけたこと・反省等	園務分掌(クラス・グループ・係等)運営・役割の中で考えたこと
職員の思い・考え	・ 0 歳児は、関わる職員によって子どもの成長に差が出ているように感じ難しさを感じた。複数担任になるので連携することの必要を強く感じた。 ・ 子ども主体の保育の在り方が少しずつ理解できつつある中、子どもへの対話の取り方に試行錯誤した。 ・ 他の職員や実習生の視点など自分とは異なる考えを受け入れて見直すきっかけとなった。 ・ 異年齢の生活を過ごす中で、生活面・遊びの場面を通して子ども同士で補い合う姿を煮ることができ、その姿が、大人が援助するよりもスムーズな時があり、子どもの持つ優しさや助け合う力を実感した。学年ではできないことがグループでは可能となり子どもの生活に幅が広がると感じた。 ・ 日々の生活・活動の中で、子どもが自身で考え行動ができるように対話を心がけた。その中で子どもたちの意識の変化や自信のついてきている様子が見られた。 ・ 一人遊びから他児との関わり遊びへの変化が見られたり、子ども自身が成長しできる事が増える様子を見ていると大人の丁寧な関わりを必要とする年齢であることしみじみと実感した。注意を促すときなど否定から入るのではなく肯定からの対話で子どもの思いを汲み取る大切さを学んだ。	・ 以上児・未満児の垣根を外した助け合いを行うようにしたが、もっとスムーズにできるとよいと感じた。 ・ 登降園時に門に一番近い部屋として、雨天時や荷物の多い週頭や週末に送迎が少しでもスムーズにいくよう配慮した。できれば他の部屋の職員も同様の目線で保護者への配慮ができるとよいと感じた。 ・ 保護者との対話の中で、保護者の伝えたいもしくは、聞きたい内奥が何なのか汲み取り、受け止めることの大切さを感じた。 ・ 保護者からの意見や質問に対し、園長はじめ、共有すべき職員に伝達できないことがあった。自分一人で終わらせずに報告・連絡・相談を徹底する必要を実感した。 ・ 要望等については、傾聴を心がけ、しかし、園としてできる事できないことについては、ご理解を得られるようお伝えすることを心がけた。一方的に暴言に近い発言をされたりもしたが、園としての考えを伝えていった。あまりの口の悪さに気持ちがなえそうになることもあった。 ・ 主幹・副主幹のリーダー会議をもっと密に実施すべきと感じた。 ・ 4 月当初からぎりぎりの職員数でスタートし、途中入職が中々かなわない中、職員間の連携で足りないところへの援助に気を配る職員が増え、心強く感じた。	・ 計画案等、早目の掲示を心がけ、仕事が進めやすくなるよう心掛けた。 ・ すぎな会との交流会について、今年度初めてお祭りを実施したが、役員以外の保護者の協力もあり、楽しく行えた。 ・ 係の中で作業に参加している人と参加していない人があるように感じた。園務分掌等分担を見直す必要を感じた。 ・ 日々の生活の中で、職員間の共通理解と連携が重要だと思う。それらに目を配り、早目に発信していけるようにしたい。 ・ 係の仕事は、伝達を密にして進めていった。同じ係の職員との連携が大切だと感じた。 ・ グループの中で、あお組会議を深めることで、年長児の意識を高めることができたのではないかと感じた。 ・ 環境認識の中で、収集台の活用が思ったようにできていないと感じた。他グループの収集台がよく使えており、分かりやすいと感じたので工夫していきたい。 ・ 年長児担任ということで、グループ担当から外してもらうことでクラス運営に専念できた。先の見通しをもって 1 年間を過ごすことができたと思う。1 年間、周囲の職員に支えられて過ごすことができ、次年度以降、自分も支えられるように気づきを大切にしたい。
まとめ(次年度への展望)	○ それぞれの年齢に関わる中で、職員一人ひとりが目の前にいる子どもたちへの保育に対し、真摯に対峙し、子どもに併せて対応し、見守りを進めていると感じた。自ら気付いた子どもの変化を保育に活かそうとする姿勢が見られていると感じる。 ○ 未満児の担当制保育、以上児の縦割り保育、ともに進めてきた保育による子どもの成長のあらわれに対し、職員からその手ごたえを感じる声が出てくるようになっている。今後も目の前の子どもたちの成長の様子を子どもたちや預ける保護者の思いを受け止めながら職員たちもそれぞれの主体性を発揮して保育に従事してほしい。	○ どの職員も保護者との対話についてはよく考えて実施しようと努力していると感じた。 ○ 一部の強硬な主張をする保護者の対応に困惑することはあったが、丁寧に対応することで理解を得ることができた。「自分の意見は、発言すればすべて聞いてもらえる。」という誤った考えを持つ保護者がいることに気づくとともに集団生活の場では無理なことは無理であると伝えていく必要性も強く感じた。 ○ 職員間の横の連携が取れ始めていることを実感するとともにそのことに影で異論を唱える職員がいることも気づき、職員間の連携について全員が前向きに協力し合える関係を築いていきたい。	○ 園務分掌の中で、全員がかかわりを持ってほしいと考える環境と保健衛生について、いつも進んで作業等に参加する人とそうではない人の差が生まれていることを感じた。次年度は、意識的に自分の係の仕事を進めてもらうため、分担を決めて進めてみようと感じた。 ○ 他の部屋や職員の協力体制等についてじっくりと見分し、振り返りができる職員が増えてきていると感じる、それぞれの感じた振り返りや協力体制が、より広がって職員間の連携等に良い影響が増えるとよいと感じる。

令和 5 年度

上池さくらこども園　自己評価